週間火山概況（平成 21 年 9 月 25 日 ～ 平成 21 年 10 月 1 日）

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

27 日、口永良部島に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを１（平常）から２（火口周辺規制）に引き上げた。

その他の火山は、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表１　今期間（９月 25 日～10 月１日）における火山現象に関する警報及び予報の発表履歴

発表日時	火山名	警報・予報	概　要
９月 27 日 17 時 00 分	口永良部島	火口周辺警報	噴火警戒レベル２（火口周辺規制）へ引上げ
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表２　10 月１日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル３（入山規制）	桜島
	レベル２（火口周辺規制）	浅間山、三宅島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル１（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ケ岳、岩手山、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（新燃岳）、霧島山(御鉢)
	平常	上記以外の活火山

図１　噴火警報発表中の火山（10 月１日現在）

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

浅間山（あさまやま）[火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）]

山頂火口からの噴煙量はやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上 200mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

GPS による地殻変動観測では、2008 年７月初め頃からの深部へのマグマ貫入を示す伸びの傾向は、2009 年７月頃から鈍化している。

浅間山では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口から概ね２㎞の範囲では大きな噴石[1)]に警戒が必要である。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石[1)]にも注意が必要である。なお、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では火山ガスにも注意が必要である。

1）噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

三宅島（みやけじま）[火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があると予想される地域では、火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

硫黄島（いおうとう）[火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。国土地理院の観測によると、2006 年８月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は、2009 年５月中旬頃から隆起の傾向が鈍化している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

福徳岡ノ場（ふくとくおかのば）[噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

28 日の海上自衛隊による上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面に変色水等は確認されなかった。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測で、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福徳岡ノ場では引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

桜島（さくらじま）[火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）]

昭和火口では、爆発的噴火が 14 回発生し、このうち９月 28 日 19 時 06 分及び 10 月１日 17 時 28 分の爆発的噴火では、大きな噴石[1)]が４合目（昭和火口から 800～1,300m）まで達した。また、同火口では夜間に高感度カメラ[2)]で確認できる程度の微弱な火映が時々観測された。南岳山頂火口では、９月 28 日にごく小規模な噴火が発生した。

火山性地震および火山性微動は少ない状態が続いている。

国土地理院の GPS による地殻変動観測では、姶良（あいら）カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による変化が引き続き観測されているが、地下深部に蓄積したマグマが桜島直下へ移動したことを示す変化は観測されていない。

桜島の昭和火口及び南岳山頂火口から２km 程度の範囲では、大きな噴石及び火砕流に対する警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石[1)]（火山れき[3)]）にも注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

2）九州地方整備局大隅河川国道事務所の黒神河原上流設置カメラ等による。

3）桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

薩摩硫黄島（さつまいおうじま）［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は高い状態が続いており、噴煙高度は火口縁上 200mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね１km の範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石[1)]にも注意が必要である。

口永良部島（くちのえらぶじま）［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］←９月 27 日に噴火警戒レベル１（平常）から引上げ

27 日 07 時頃から火山性地震が増加したことから、火山活動が高まっていると判断し、27 日 17 時に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを１（平常）から２（火口周辺規制）に引き上げた。

28 日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が第十管区海上保安本部の協力を得て、京都大学と合同で実施した上空からの観測では、新岳火口及びその周辺の状況に変化はなく、新岳火口から引き続き噴煙が認められた。火山性地震は 29 日以降次第に減少している。

口永良部島では、新岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね１km の範囲では大きな噴石[1)]に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石[1)]にも注意が必要である。

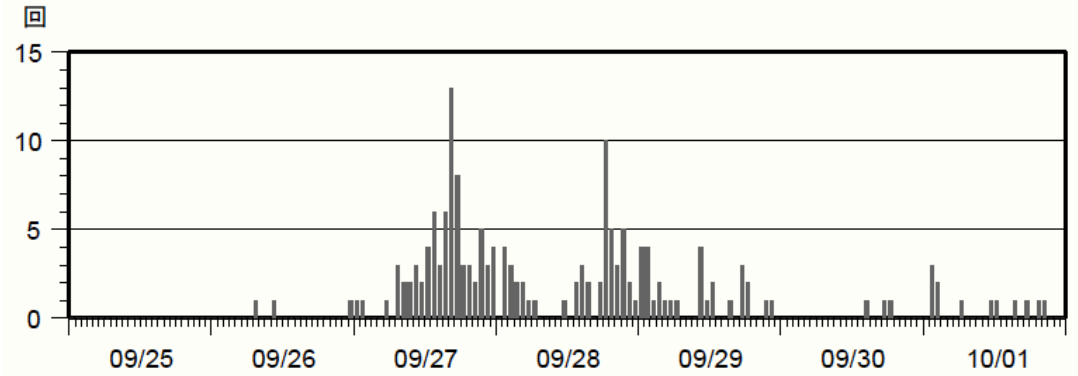

図２　口永良部島　火山性地震の時間別回数（2009 年９月 25 日～2009 年 10 月１日）

諏訪之瀬島（すわのせじま）［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

御岳（おたけ）火口では、小規模な噴火が時々発生した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、今後も御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね１km の範囲では大きな噴石[1)]に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石[1)]にも注意が必要である。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

樽前山（たるまえさん）［噴火予報（噴火警戒レベル１、平常）］

25 日 06 時 07 分頃に、継続時間が約 90 秒の振幅のやや大きな火山性微動が発生した。このほか、04 時 15 分頃にも、振幅の小さな火山性微動が発生した。火山性微動の発生は 2009 年７月２日以来である。微動発生前後において、噴煙の状況やその他の観測データにも特段の変化は認められなかった。火山性地震は期間中少ない状態で経過した。

Ａ火口及びＢ噴気孔群では高温の状態が続いており、また、山頂溶岩ドーム付近の局所的な膨張を示す地殻変動が、2006 年以降継続している。

地震活動や噴煙活動は低調な状態であるが、今後の火山活動の推移に注意する必要がある。

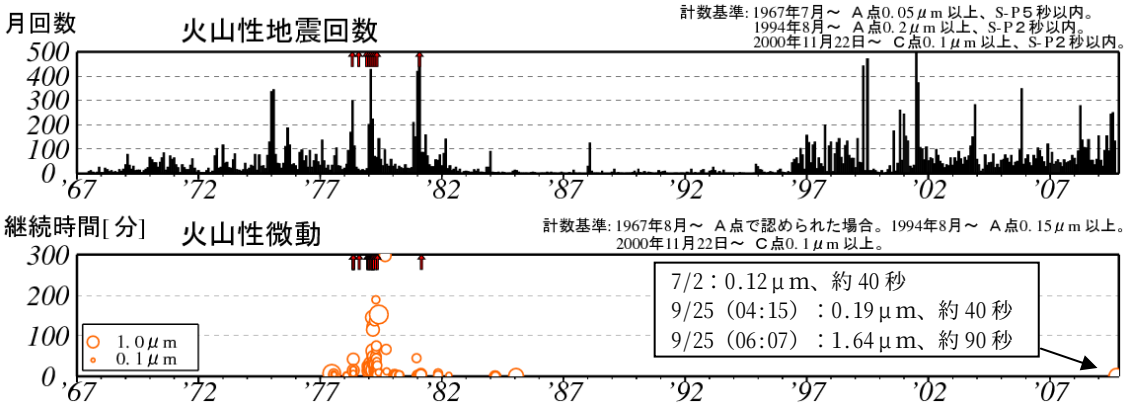

図３　樽前山　火山性地震と火山性微動の経過（1967 年７月～2009 年 10 月１日）
↑：噴火を示す

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

【参考】　噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル５（避難）	噴火警報	居住地域厳重警戒 または山麓厳重警戒
レベル４（避難準備）		
レベル３（入山規制）	火口周辺警報	入山危険
レベル２（火口周辺規制）		火口周辺危険
レベル１（平常）	噴火予報	平常

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。